

【文部科学大臣賞：小学生の部】

「ぼくの幸せ」

宮崎県・西都市立妻北小学校
6年 日高 晃輔 さん

「がんばってね。」

ぼくは、この言葉をよく言われます。妹がぼくの車イスを押して買い物をしていると、

「大変だね。がんばってね。」

と声をかけられます。なぜ、ぼくを見た大人はこう言うのか分かりません。

ぼくは、9才の夏までみんなと同じように走ったり、歩いたりできていました。でも今は、自分の力で歩く事ができません。それで4年生から、車イスを使って生活しています。

ぼくは、筋ジストロフィーなので、だんだん歩いたりできなくなってきました。今の筋力を保つために、歩行器で練習もしています。

今、ぼくはたくさんの人の手を借りて日常生活や学校生活を送っています。

学校では、少人数学級に在籍していて、国語や算数は少人数学級で授業を受けています。ぼくは発達障がいもあるけど、社会や理科などたくさんの授業を交流学級で受けています。交流学級では、障がいのある、ぼくをクラスの一員として受け入れてくれています。授業の前の休み時間には必ず迎えに来てくれます。

ぼくは、クラスの友達が自分の時間を使って手を貸してくれるのは、あたり前のことじゃないと思っています。校外学習の時も、すぐにぼくの所に来て車イスを押してくれたり遊びの中に入れてくれたりする優しい友達です。

いつでもぼくの周りには友達がいてくれるので、安心して楽しい学校生活を送れます。

友達だけではありません。ぼくは、身の周りの事でできないことがたくさんあるので介助員の先生の手も借りて学校生活を送っています。家庭では、着がえを手伝ってくれる妹や、お風呂やトイレを手伝ってくれるお母さんがいます。でも、ぼくがだんだん成長しているので、お母さんがお風呂やトイレの時にぼくをかかえるのが大変になってきています。そこで、お風呂に入れる事業所を福祉サービスや市役所に相談して探しました。今はその事業所を、週4日利用しているので、お母さんとけんかする回数も減りました。そこを利用する事によって、ぼくもお母さんも助かっています。ぼくは、いつもゆっくりお風呂に入れて、いい気

持ちになれるので、イライラも減ったんだと思います。

ぼくは、今車イス生活を送っていますが、ぼくの学校は障がいのある子どもを何人も受け入れています。ぼくは、この学校に通えてよかったです。つらい事もあるけど、周りに支えてもらいながら、みんなと同じようにはできないけれど、自分なりにがんばっていこうと思います。支えてくれるみんなに感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。ぼくの事をいつも優しく支えてくれる家族や友達、先生に囲まれて、毎日楽しいです。ぼくに声をかけてくれる大人に、「ぼくは幸せだから大変じゃないよ。」と。